

BOOK REVIEW

ケアプランに活かす 嚥下障害イラストブック

リハの目標は四肢の矯正から心身機能の回復、社会参加へと展開し、最近では栄養摂取や酸素吸入を支援して生きることにもかわるようになってきた。そのことにより誕生した嚥下障害へのリハは関与職種が多く、喉の奥といった見えない部位への対応のためケアプランでの取り組みは遅れている。

しかし、血管や胃腸に栄養剤を注入して長期間生存できても、口から美味しい食べ物を摂れない利用者やご家族は生活の質が著しく低下することに熱意ある介護者は心を痛めている。とは言っても、日本の高齢社会では死因の3番目が誤嚥にかかわる肺炎であることから、生きるためと楽しむための食事が命を落とす危険な行為となる人へのケアは二律背反の業務となる。

このような葛藤から解放してくれる本、『ケアプランに活かす 嚥下障害イラストブック（武原 格編）』は医師である編者が全ページの約15%を著しているが、残りの約85%はOT、ST、歯科衛生士、さまざまな認定看護師、主任介護支援専門員が現場目線でやさしく記述している。嚥下のみに的を絞った著書であるので、本書では嚥下の基礎知識から嚥下障害を疑われる利用者さんへの対処法、利用者さんとそのご家族・介護者にできる口腔ケアと嚥下リハが約100ページにわたって余すところなく詳述されている。

第1章の「初めに知っておきたい基礎知識」では飲み込みの仕組み、飲み込みにく

くさせる原因や薬、利用者の全身状態と口腔内の観察方法、飲み込み異常の発見法とスクリーニング法、医学的検査法が豊富なイラストを使ってのおおの2～5ページにまとめられている。嚥下障害が疑われる利用者さんについては基礎的な病気や栄養摂取法・摂取量、日常生活や食事の様子を確認して情報を収集する方法、嚥下機能向上のためのケアプランのつくり方、嚥下にかかわる医療機関やST、社会資源について解説されている。最後に利用者さんとそのご家族、介護者にできる口腔ケア、自宅での食べる練習と支えるコツ、嚥下に関するリスク管理、胃瘻周囲の皮膚ケア、下痢への対応法がイラスト入りで記述されている。

介護現場をあずかる立場として在宅や施設内利用者さんの嚥下障害へのケアプラン作成が難しくとも避けられないのは、潜行する嚥下障害、胃瘻や経鼻経管栄養の経過中に体力回復に伴い軽快する嚥下状態への対応策が現在の医療では一般化していないからである。そこで、嚥下困難を理由に食べ物を不味くさせるとろみを安易に加えない、食事時には正しい姿勢をとるなど介護ができること、そして他の専門職に依頼すること、などを包括した嚥下障害へのケアプラン作成が望まれる。今後、介護保険が嚥下障害に対応できるようになれば、介護体制が日本の高齢社会での困難の1つを解決する救世主となり、そのバイブルが本書となろう。



● 武原 格＝編

(B5判/104頁/2,200円＋税/三輪書店/2015年)

評者

林 泰史

原宿リハビリテーション病院 名誉院長、医師